

## 派遣報告書

【氏名】 村松恭平

(所属：東京外国語大学大学院・総合国際学研究所・地域国際専攻・博士前期課程)

【派遣先】 ジュネーブ大学・欧州研究所 (Institut européen de l'Université de Genève)

【派遣期間】 2011.8.1 - 2012.7.31

### 【派遣の概要】

修士論文のテーマである“Jacob Viner と欧州地域の関税同盟構想”に関する資料収集、文献の調査、論文の執筆を行うことを主な目的として、ジュネーブ大学・欧州研究所に派遣された。特に、第二次世界大戦後の欧州経済統合プロセスの中で、関税同盟<sup>1</sup>が歴史的・思想的にどのように位置付けられているかを中心に調査を進めた。調査方法としては、資料分析の他、研究テーマに関連する研究所の講義やセミナーも活用しながら、議論やアイデアを深めていった。具体的な成果としては、本研究内容に関する修士論文を 2013 年 3 月に東京外国語大学に提出する予定である。

派遣先であるジュネーブ大学・欧州研究所 (Institut européen de l'Université de Genève ※以下、IEUG<sup>2</sup>) は、1963 年に創設され、人文学や法学、政治・経済学等の学際的な研究方法で欧州研究を行う機関として知られている。特に欧州連邦主義 (fédéralism) の思想を研究基盤に持つ。報告者は、欧州研究・マスターコース (Master en études européennes) の政治・経済・社会コース (Economie, Politique et Sociétés) に在籍した。研究指導は、地域経済統合を専門とする経済学者の Miroslav N. Jovanovic 教授<sup>3</sup> に依頼した。

主な研究場所として、ジュネーブ大学 (Uni-Mail) の図書館 (La Bibliothèque de l'Université de Genève<sup>4</sup>) を活用した。この図書館の IEUG のコーナーでは、欧州統合に関して豊富な文献を所蔵している。社会科学の分野では一般的に英語の文献が多いが、仏語文献も多く、独語文献も少なからず所蔵している。また、Uni-Bastions や Graduate Institute for International and Development Studies (IHEID) の図書館も、資料収集の目的で何度か訪れた。

派遣期間に関し、到着月である 2011 年 8 月は住居確保や滞在許可関連の手続きと、午前中にはジュネーブ大学・仏語夏期講習 (Cours d'été de langue française) に 3 週間、参加

---

<sup>1</sup> 関税同盟は地域経済統合 (国境を越えて財や資本、労働の自由な移動等を可能にさせる統合) に関する概念・統合形態の一つ (B. Balassa が提唱した経済統合の 5 段階説) として理解され、“地域ブロック化”とも言える。

<sup>2</sup> 参照：<http://www.unige.ch/ieug/index.html>

<sup>3</sup> 参照：<http://www.miroslavjovanovic.ch/>

<sup>4</sup> 参照：<http://www.unige.ch/biblio/index.html>

した。集中的にフランス語をブラッシュアップすることで、翌月から始まったマスターコースの講義・ディスカッションにスムーズに適応することを目的とした。9月前半にはジュネーブ大学におけるフランス語の入学試験が行われ、それに合格したことで、IEUGの正規学生として研究を始められることとなった。9月中旬には Jovanovic 教授と面会し、修士論文のテーマと論旨の流れを説明をしながら研究方針を相談した。以後、秋～冬の Semester（～2012/1）ではゼミナールへの参加を通して Jovanovic 教授とは週に1回の頻度で顔を合わせ、そこで研究に関して相談するチャンスも何度か得られることになった。2012年5月に現段階の論文を教授に提出し、コメント・批評をいただいた。その後研究を継続し、報告者は同年7月に日本へ帰国した。

### 【成果】

本研究の中心テーマである欧州地域の関税同盟構想について、特に、戦後西欧における地域経済統合プロセスの中での思想的位置付け、関税同盟形成の歴史的プロセスについて調査・執筆作業を進めることができた。研究当初は“(経済)統合とは何か”といったマクロな視点から戦後の経済統合に関する思想の調査を始め、次に関税同盟の位置付けを分析し、評価していった。この研究は2013年3月に発表予定の修士論文に反映させる。

執筆論文の構想に関連し、以下の3点に項目を分け、具体的に調査を行った。

1. 戦後復興と欧州経済統合に関する議論とアイデア
2. 戦後西欧における関税同盟形成までの政治・経済的協調プロセス、域内貿易網復活を妨げる問題点
3. 関税同盟の性質と概念の分析、戦後の国際的枠組みの中での関税同盟の位置付け

\*\*\*\*\*

1. 戦後復興と欧州経済統合に関する議論とアイデアの調査では、特に欧州とアメリカの関係性に注目した。Fritz Machlup、Javob Viner、Raymond Aron の文献から<sup>5</sup>、
  - ・戦後、米国・ソ連の政治的・経済的・軍事的脅威を背景とし、市場が分断された状況 (the division of markets) から巨大市場 (a giant market) 形成への議論の流れ、
  - ・欧州が個別の国民国家ではなく“欧州連邦”として一つにまとまるべきである、という西欧諸国における議論の高まり、
  - ・経済統合(economic integration)に関する戦後の共通認識 (一般定義) を考察した。

---

<sup>5</sup> Fritz Machlup (1977) *A History of Thought on Economic Integration*, Macmillan Press Ltd, .

Javob Viner (1950) *The Customs Union Issue*, Carnegie Endowment for International Peace

Raymond Aron (1957) *L'union française et l'Europe, L'unification économique et l'Europe - L'évolution du monde*

*des idées*, Édition de la Baconnière, Neuchatel (Suisse)

2. 戦後西欧における関税同盟形成までの政治・経済的協調プロセス、域内貿易網復活を妨げる問題点の調査では、William Diebold Jr.や Sidney Dell の文献<sup>6</sup>を中心に、
  - ・戦後の欧州経済統合のより具体的なプロセス：通貨兌換性の復活と、各国市場を結ぶ“貿易網” (the web of trade)の再構築→国際貿易の発展、
  - ・自由貿易と経済統合の関連性、すなわち、自由貿易システムが経済統合の深化に関連するかといった議論、
  - ・戦後からの関税同盟形成プロセスの過程を調査した。
  
3. 関税同盟の性質と概念の分析、戦後の国際的枠組みの中での関税同盟の位置付けの調査では、主に Javob Viner、Fritz Machlup の上記の文献を用いながら、
  - ・J.Viner による関税同盟の思想的・歴史的分析、
  - ・ITO（国際貿易機関）憲章における関税同盟の位置付け、
  - ・戦後の国際経済システム(multilateralism vs (economic) regionalism)の議論を調査した。

\*\*\*\*\*

他、欧州政治・経済に関する研究所における講義・ゼミナール<sup>7</sup>、シンポジウムやセミナー等<sup>8</sup>への参加を通して、欧州経済統合の歴史や思想、または昨今のユーロ危機に関する専門家の議論にも直接触れることができた。また、J.Viner の作品を含め、研究テーマに関する文献を十分に入手できた。

#### 【今後の課題】

- ・収集した文献の整理と（再）調査
- ・引き続き修士論文の執筆を継続する。必要に応じて、派遣中に執筆した論文の構成を再度見直す。
- ・調査対象とした思想家や経済学者の思想的、歴史的な位置付けを客観的に分析し、その上で関税同盟の思想、関税同盟形成のプロセスの調査を更に掘り下げる。

以上

---

<sup>6</sup> William Diebold Jr. (1952) *TRADE and PAYMENTS in WESTERN EUROPE - A Study in Economic Cooperation 1947-51*, Council on Foreign Relations

Sidney Dell (1963) *Trade blocks & Common market*, Constable・London

<sup>7</sup> 主に研究テーマに関連した講義やゼミナールに参加した。e.g. “欧州経済統合の理論” (Théorie de l’ intégration économique européenne)、 “政治的観点からの欧州統合” (L’ intégration européenne dans une perspective politique)、 “EUの経済政策” (Economic Policy of the European Union)、他。

<sup>8</sup> 欧州研究所が主催する小規模のセミナー (Midis de l’ Europe) に毎月出席し、国際連合欧州本部の見学や International Congress on Energy Security : United Nations Office in Geneva のような国際会議にも参加する機会を得られた。